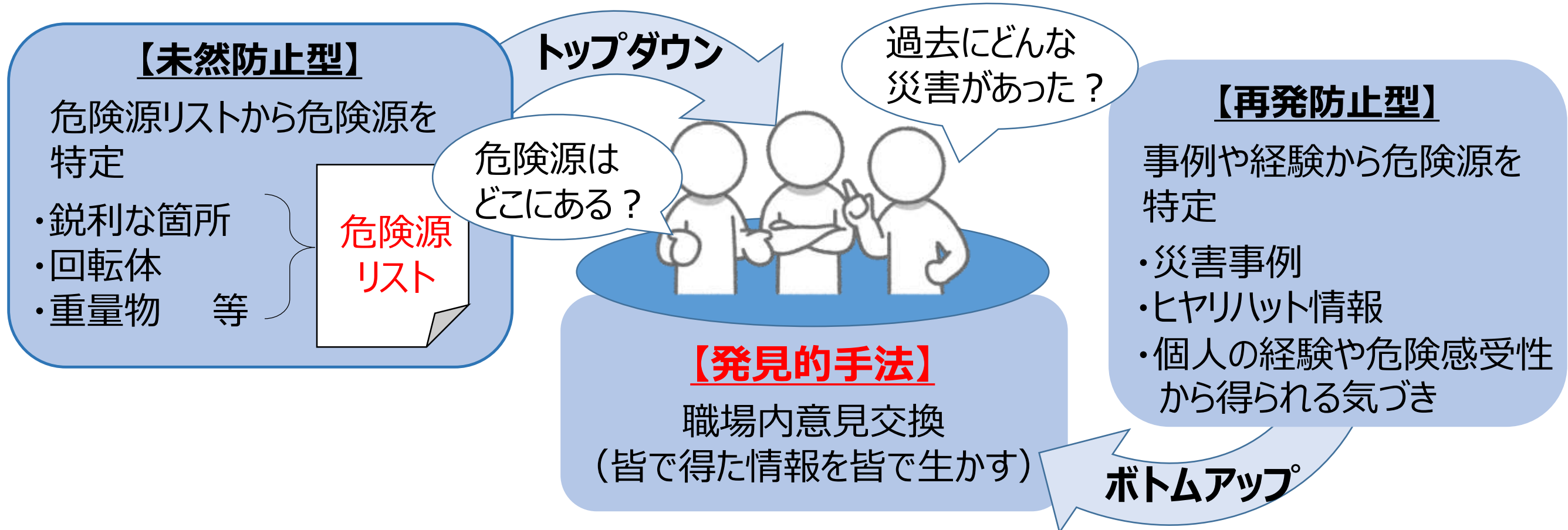


進捗状況及び今後の運営について

1. これまでのサブWGの活動内容について

リスクアセスメントの危険源の特定において、各業種からの事例をもとに、共通手法を探る。
 前回WGでは、網羅的なリスクアセスメント実施には職場での意見交換による「発見的手法」が有効であり、そのためには①わかりやすい危険源リストの用意と、②職場で意見交換を行うためのコミュニケーションツールの2つが大切であるとの意見にまとまった。
 今後はこの2点に関する各社の活動を共有しながら、危険源特定の共通手法を探り、提案する。



2. 今回SWG 代表各社における危険源リストや発見的手法の事例を共有

8/30のSWGでは、職場でどのようにリスクアセスメントが進められているか情報収集し、一部事例を紹介・共有した。（社外秘情報を含むため、詳細資料は省略）

3. 今後の活動「危険源」をもっとイメージしやすく（危険源リスト作成）

各社事例をもとに、設備や工具・作業等に、こういった危険源が潜んでいるのか判断しやすいツール（一覧）を作成する。

【第1ステップ】 新一覧作成（2021年度活動中）

①「危険源の型」をイメージしやすいワードに変換し、増やす。

現在実施中

②「危険源の型」から、関係する設備や工具・作業等の具体的な名称を収集。
業界特有の設備や言い回し等をできるだけ反映。

各社依頼

②

①	危険源の型	具体例		
		機械・設備	工具、原材料、製品、副産物	作業、環境
	機械・器具等に係る危険源	記入（追加）		
	回転している箇所			
	伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所）			
	内部に高圧がかかっている箇所			
	鋭利な箇所			

逆引きに
組みなおす。

③具体的な設備や工具等の名称を左列に整理し、関係する危険源を判断できる新一覧を作成。

③	50音	機械・設備	危険源の型	
	か	攪拌機	回転している箇所	
	ぐ	グラインダー	回転している箇所	
	し	シリンダー	伸縮・上下運動する箇所（隙間が狭くなる箇所）	
	せ	旋盤	回転している箇所	鋭利な箇所

事務局担当

ひとつの設備や工具等に対し、複数の危険源がある場合も考慮。漏れの低減につなげる。

【第2ステップ】 新一覧の利用トライアルと使用実感の収集（2022年度活動予定）

④新一覧を利用した目線でリスクアセスメントを実施。（新規、改訂、既存等どれでも可）
キーワードの効果に対し、実感を確認。（アンケート）

各社依頼